

神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

第 163 号

(2006年 6月)

平成 18年8月31日発行

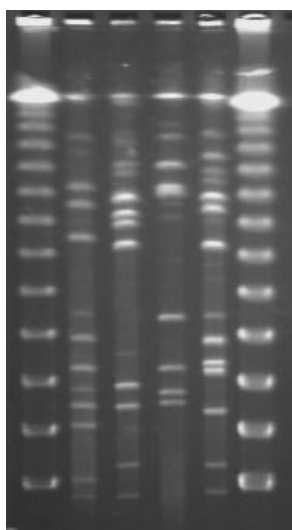
話題

Campylobacter jejuni が検出された下痢症事例の PFGE 解析

腸管系細菌グループでは感染症発生動向調査の一環として感染性下痢症が疑われる患者便について腸管系病原菌検査を実施している。平成 18 年 6 月 22 日 (3 件) と 26 日 (1 件) に同一医療機関において採取された下痢症患者便 4 検体から *Campylobacter jejuni* を検出した。同じ医療機関での短期間における検出数としては多いことから、同一の感染源による感染性下痢症を疑い、相互の関連性を調べる目的で *Sma* I と *Kpn* I の 2 種類の制限酵素を用いてパルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)法による分子疫学調査を実施した。(下図)

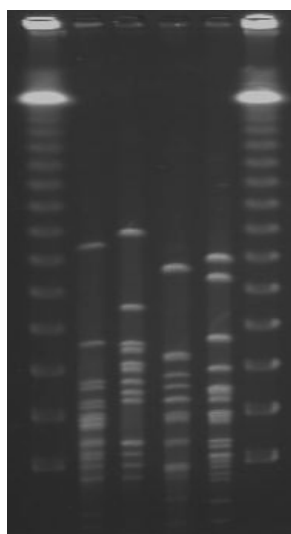
Sma I

M 1 2 3 4 M



Kpn I

M 1 2 3 4 M



この結果、検体 1～4 に同じパターンは認められず、今回の 4 事例は異なった感染源による散発事例であることが判明した。カンピロバクターによる食中毒発生の増加を考慮すると、食品媒介による胃腸炎とも推察され、その感染源推定に PFGE が有効な手法の一つであることから今後も、必要に応じて PFGE を用いた分子疫学調査を積極的に取り入れ感染拡大の防止に役立てたい。

(腸管系細菌グループ 石原ともえ)

カンピロバクター感染症：

カンピロバクターは 15 菌種 9 亜種 (2000 年現在) に分類されているが、ヒトの下痢症から分離される菌種は *Campylobacter jejuni* (以下 *C. jejuni*) がその 95～99% を占め、*C. coli* や *C. fetus* は数% に過ぎない。従って、カンピロバクター感染症は、*C. jejuni* 感染症と言っても過言ではない。カンピロバクター腸炎は特に乳幼児や学童の下痢症として重要である。

表1 病原体検出状況(保健所等別)ー平成18年6月

発生保健所 検出病原体 区分	食中毒および感染症発生に伴う行政検査等											病原体定点等※1				菌株精査	計				
	平塚保健所	鎌倉保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	藤沢市保健所	相模原市保健所	横須賀市保健所	県域外発生関連調査	小計			小児科	インフルエンザ	眼科	基幹
細菌	腸管出血性大腸菌(EHEC)	1												1							1
	その他の大腸菌 ※2														2						2
	サルモネラ O7群		1											1							1
	サルモネラ O8群										1			1							1
	カンピロバクター ジェジュニー										4			4	4						8
	カンピロバクター コリ										1			1							1
	A群溶血レンサ球菌														11						11
	小計		1	1							6			8	17						25
ウイルス	インフルエンザ B														1						1
	コクサッキー A 4														15						15
	コクサッキー A 16														3						3
	アデノ 3														1						1
	アデノ 40/41														2						2
	小型球形												1	1							1
	未同定														1						1
小計													1	1	23					24	
計		1	1							6			1	9	40						49

※1:病原体定点の検出数は藤沢市、相模原市、横須賀市も含めた定点の合計を計上した。

※2:EHEC/VTEC・ETEC・EIEC以外の大腸菌

検出概要

- 6月の病原体検出数は合計49件、細菌25件、ウイルス24件であった。
- 食中毒および感染症発生に伴う行政検査等では細菌8件、ウイルス1件が検出されている。
また、病原体定点からの検査では、細菌17件、ウイルス23件が検出されている。

検出状況

- 鎌倉保健所管内において腸管出血性大腸菌 O26 : H11(VT1 保有)が検出され、患者発生届が出された。
- 藤沢市では、有症苦情が3事例発生し、2事例からカンピロバクタージェジュニーが4件検出され、1事例からはカンピロバクターコリとサルモネラ O8 群が1件同時検出された。

表2 病原体検出情報（疾患別）－平成18年6月

疾患名 検出病原体	疾患別															有症	食中	合計		
	腸管出血性大腸菌	つつが虫病	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	を麻しん除く（成人麻しん）	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	無菌性髄膜炎	成人麻しん	A群溶レン菌咽頭炎	淋菌感染症				百日咳	その他
検査検体数	1				16									12			1	11		41
細菌																				
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1																			1
その他の大腸菌※※					2															2
サルモネラ 07群																	1			1
サルモネラ 08群																		1		1
カンピロバクター ジェジュニー					4													4		8
カンピロバクター コリー																		1		1
A群溶血レンサ球菌														11						11
小計	1				6									11			1	6		25
ウイルス																				
取り扱い検査件数				1	15	9	13			1		1	1				1		23	65
インフルエンザB										1										1
コクサッキー A4						2	13													15
コクサッキー A16						3														3
アデノ 3				1																1
アデノ 40/41					2															2
小型球形																			1	1
未同定						1														1
小計				1	2	6	13			1									1	24
計	1			1	8	6	13			1				11			1		1	49

※ 4月より横須賀市、相模原市、藤沢市の検体が含まれています
 ※※ EHEC/VTEC・ETEC・EIEC以外の大腸菌

検出状況

- ・ A群溶血レンサ球菌が咽頭炎患者12件のうち11件（92%）から検出された。その血清型はT1（6件）、T3（1件）、T12（3件）およびT25（1件）であった。
- ・ 5月に引き続き、6月もインフルエンザウイルスB型が1件検出された。
- ・ ヘルパンギーナの患者報告数の増加に伴い、コクサッキーA4型がヘルパンギーナ患者13件全件から検出された。
- ・ 手足口病の患者報告数の増加に伴い、コクサッキーA4型が2件、A16型が3件検出されている。

表3 病原菌検出状況(月別) —平成18年6月

菌種・型別	月												平成17年計	平成18年累計	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月			6月
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1	6	4	5				18	1		3	4	6	1	15
毒素原性大腸菌(ETEC)				3				3							
その他の大腸菌※※		2	2	1		1		21	4	3	1	3		2	13
パラチフス A菌															
サルモネラ O4群															
サルモネラ O7群				5				5		4				1	5
サルモネラ O8群											1			1	2
サルモネラ O9群			1		1	2		5		1					1
O1&O139以外のコレラ菌															
腸炎ビブリオ			24	7				31							
エロモナス キャビエ			1					1							
カンピロバクター ジェジュニー	8	15	8	5	5	6		49			7	3	1	8	19
カンピロバクター コリー														1	1
黄色ブドウ球菌				1		3		4					1		1
ウエルシュ菌	8							60				80			80
セレウス菌								1							
赤痢菌 D群															
A群溶血レンサ球菌						1	1	9	4	4	5	3	6	11	33
マイコプラズマ ニューモニエ		3			4	1		8		1					1
合 計	17	26	40	27	10	14	1	215	9	12	18	93	14	25	171

※ 平成18年4月より横須賀市、相模原市、藤沢市の検体が含まれています
 ※※:EHEC/VTEC・ETEC・EIEC以外の大腸菌

検出概要

- ・ 6月は前年同月比47%増、前月比78.6%増の25件が検出された。
- ・ A群溶血レンサ球菌は、本年は患者報告数が昨年に比して多く、6月も最多の検出数となった。
- ・ 6月についてもカンピロバクタージェジュニーが、食品媒介が疑われる発生事例、感染性下痢症患者等から多く検出された。

表4 ウイルス検出状況(月別) ー平成18年6月

疾患名 検出ウイルス	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成17年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	平成18年累計
インフルエンザ AH1							6	6	19	19	6				44
インフルエンザ AH3							3	77	136	35	1				172
インフルエンザ B								105					2	1	3
パラインフルエンザ 1									1	1					2
R S						1		1		1					1
ポリオ 3								1							
コクサッキー A2								1							
コクサッキー A4		1						1					4	15	19
コクサッキー A5			1					1							
コクサッキー A6	9	12						23							
コクサッキー A9					1			1							
コクサッキー A10	1				1		1	3							
コクサッキー A12		1						1							
コクサッキー A14	1		1					2							
コクサッキー A16	4	4	2	4		1	1	17					1	3	4
コクサッキー B3		1						1							
エコー 3	2	1						3							
エコー 6	2							2							
エンテロ 71		5	5			1	1	13							
パレコー 1					1			1							
ライノ				1				1							
ムンプス	10	2			2	1	1	21		1		2	1		4
アデノ 1											1				1
アデノ 2	1	1						4		1					1
アデノ 3	1		1		1	1	1	8		2	2	4	3	1	12
アデノ 4								1		1					1
アデノ 5								1							
アデノ 40/41						2		2						2	2
アデノ(型未決定)												1			1
単純ヘルペス 1	1				2			4	1			1	1		3
ロタ							1	31	1		22	8			31
小型球形														1	1
ノロ	7				1	21	48	240	80	13	13	36	4		146
サポ								50					1		1
未同定														1	1
オリエンチア ツツガムシ					1	12		13							
合計	39	28	10	5	10	40	63	636	238	74	45	52	17	24	450

検出概要

- ヘルパンギーナの患者報告数が20週(5/15~5/21)から増加し始めたことを反映し、コクサッキーA4型が5月に続き最多の15件検出された。